

レポート 東構協

1995年 3月20日

第 4 号

発行 東京鉄構工業協同組合
 〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
 TEL 03 (5566) 1 5 9 5
 FAX 03 (5566) 1 5 9 7



新年賀詞交換会の会場風景（ロッテ会館）



苦しい時こそ沈着に

理事長 金子 升一

昨年1年間、会員の皆様には当組合の運営にご協力賜わり、心からお礼申し上げます。

1年を振り返りますと、日本の景気が昨年ほど良きにつけ悪しきにつけ、自然の影響を受けた年も稀だったのではないかと思います。思い返せば猛暑と米不足、さらには水不足の問題などは皆様の印象に強く残る出来事でした。一方、経済界も内外価格差とか価格破壊といった新語も生ま

れ、為替レートも最高値を記録し、各産業界とも構造改革の転換期を改めて認識させられました。

その様な中で、私どもが関連している建築業界は、いまだにバブル崩壊の影響は厳しいものがあります。しかも、この現況は極限に近いと言っても過言ではないでしょう。過去においても私ども業界は幾多の試練をくぐり抜けてまいりました。その様な経験からも今はじっと耐え、皆さんが団結して冷静

に対応する事が重要かと考えます。

今回の阪神大震災の被災地の状況をテレビで見ていると、被害に逢った方々が冷静に整然と、そして希望を捨てずに頑張っている事に感銘を受けました。どうか我々もこの様な時期こそ沈着に会社の運営を行い、組合活動を通して、我々本来の喜びである「造ったものが将来に残る」事を最高の喜びとして頑張りましょう。

(那須ストラクチャー工業(株)専務)

地区会の活動報告

〔東地区〕

地区長 松本 英一



拝啓、東構協会員各位。各々奮闘努力しこの1年を乗り切ったわけであるが、決して楽しい年でなかった事は各位も同様であった事と拝察致します。

東地区としては、最低義務の工場巡回パトロールを予定通りこなし、結果も前年とほぼ同じ、その他の活動は殆んど行っていないため特に報告する事例もない。

昨年始め、景気が上昇に転じた筈なのに、我々の業界は右肩下がりの角度が殆ど変わらなかったように思う。年末近くになり見積もりの引き合いが増えた気配を感じて、景気が良くなる印象を持った

〔南地区〕

地区長 榎本 敏昭



南地区会を昨年11月16日午後6時より、錦糸町ロッテ館にて開催しました。金子理事長、辻川副理事長はじめ各理事の出席をいた

〔西地区〕

地区長 松田 清明

会員が居るように思われるが、いかなものでしょうか。私にはゼネコンが引き合い先を増やしただけで、工事量が増えている様には思えない。つまり、ますます受注競争が激しくなる前兆でなければよいが。今しばらく、この様な状況が続くのでしょうか？

また、秋には武本理事の訃報に接し、動転しました。うかつにもまさに晴天の霹靂でした。ご遺族の御哀しみは如何ばかりであったかとお察し申し上げます。

よき先輩であった武本氏を、この様な若さで失なったことは残念でなりません。私のみならず東構協にとっても大きな打撃であり、深い哀しみであります。

そうこうしているうち、平成4年10月から病氣療養中の私の父(弊社会長)の様態が急変し、1月13日亡くなりました。その節は、大勢の皆様方にご会葬いただき、また多大なるご厚情をいただきまして、誠に有難うございました。だき、総勢29名の南地区の面々が集まり、特に、安井理事の工場認定時の注意事項に関しては、R、Mの各グレードの責任者が耳を傾けていた。

次に物件情報届出制度については、昨年度より認定とリンクさせて、見積もり物件の情報制度を実施しているが、今回、関東支部全体として届出報告用紙を統一し、全体としての資料をまとめやすいようにしたので、是非共協力してほしい。

昨年11月24日「ホテルストラダ新宿」において、西地区会を開催いたしました。西地区会員、組合から金子理事長、中川、辻川両

この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。武本理事の追悼もさめやらぬうちに、自分の父の追悼を行なうことになり、持ち前の毒舌(自分ではあまり自覚していませんが)も少々めりがちであります。

今この時、世情は阪神大震災下、騒然としています。テレビ等を見ると、建造物の破損状況、強度問題等にマスコミの関心が高い事に驚いている。映像のみの印象では、鉄骨の入った建造物の被害は予想以上に少ないように感じたのは諸兄も同様であると思う。

設計段階では建物の強度は同一の筈であるにもかかわらず被害は甚大であった。犠牲者の方々に心より哀悼の意を表し被災者の一日もはやい復興を願うところです。また、この構造の違いによる被害の差を全構連は独自の立場で広く一般の方々にお知らせし、この事例を不幸中の教訓とし、今後の建造物に対するコストのかけかたの見直しを世に訴えて行く事が社会的義務かつ最優先課題であると思ふ。 (松本工業(株)社長)

この届出報告制度は、認定時に物件情報報告及び実施報告の一連で評価をされることになっているので、各会社においては、届出報告をとりあえず実施し、将来はその資料を利用して、種々の資料作成に用いるので、正確な報告をお待ちしています。

最後に、共済各社がPRを行い、会議を終了した後、懇親会に入り、単価の問題の打開策についていろいろ話し合い、有意義な勉強会であった。 (株)中島鉄工所社長)

副理事長、福島事務局長、及び賛助会員6社を含め37社40人程が出席致しました。

主議題は、「H. T. B現場施

工と問題点」ということで、最初に日本鉄構建設工業(株)の森社長よりテーマ説明として、各現場での“トルシア形ハイテンションボルト工事受入検査”及び“全数マーキング作業の簡略化が出来ないのか?”が提起されました。

引き続き、講師をお願いした住金精圧品工業(株)企画部の原次長から①高力ボルト接合の概要②高

〔北地区〕

地区長 木崎 康允



前年度は、南・北地区合同会を開催しました。特に技術教育にご熱心だった今は亡き武本前南地区長に大変ご協力をいただいたことが、昨日のように思い出されます。会員工場数や工場所在地に特異性のある北地区では、今後も時折合



力ボルトの現場施工手順と注意点について、スライドを使用し約40分間、森社長の提起問題に対する解答を含め、わかりやすく講義をしていただきました。質疑応答も同で開催し、幅広く皆さんのご意見を聴取すべく他地区に働きかけたいと思っています。

北地区では94年度の行事としては、工場パトロールを残していますが、昨年11月には北地区全体会を理事長、副理事長出席のもと開催しました。厳しい市況下ですので、工場現況説明では、各工場とも操業率60~70%台、中には50%を切っているとのことで、いろいろなりストラで懸命に改革をされていらっしゃる姿を伺い知ることができました。また、鉄骨品質向上のための工場パトロールについては、工場間隔差が若干あるもの

活発に行われました。しかしながら、メーカーの立場として現状理論を肯定する以外、否定する論拠については我々の期待に反し言及されず、今の段階では理論通りの作業が必要と説明され、会員一同、大変ガッカリしました。ただ、皆が疑問に思っている事を明らかにしたと言うことで、大きな意義がありました。(松田鋼業(株)社長)

の、技術指導員の方からは少しづつ改善されているとの報告も受け付けています。特にソフト面の充実を共にめざして、今後とも指導協力を行っていきたくと思っています。

来たるべき新年度では、工場パトロールによる技術指導のみになりがちな従来の訪問方法に加えて別に機会をつくり共済事業その他の事業についても、もう少し本音の話し合いを個別訪問の形で実施していく方針です。

北地区みなさんのご意向がより明確に組合理事会等で検討され、反映されることをめざして努力してまいります。(株)コバ建常務)

昨年10月の武本侃・飯田製作所社長の突然のご逝去は、社員の方々は勿論、組合関係者一同、全くの驚き以外はなかったのではないのでしょうか。氏は、理事、南地区長、技術委員として組合事業活動に尽力され、検査パトロールはじめ組合員の技術レベルの向上に対して真摯に取り組んでこられたことは周知の如くです。

故武本社長と飯田製作所とのかわり合いは、昭和28年、飯田歳松会長(当時社長)の義弟のご紹介で新潟県佐渡から上京されました。新聞記者になることを夢みていた22歳の色白の美青

年でありました。川崎製鉄千葉で人工付けと、蘇我の寄宿舎から職人の昼食弁当運びがスタートだったそうです。

29年、江東区東陽町4に本社事務所を設立してからは、事務をとるかたわら現寸を覚えるなど勉強

故 武本 侃理事を悼む 榎本 敏昭

好きな真面目な人間振りを発揮され、34年には現事務所の設計もされました。またこの頃、溶接や構造関係の勉強もされ、大学出の専門技術者と対等に話が出来ようになられたとのことでした。

33年3月には現会長の長女、輝

子さんと結婚、1男1女にお孫さん2人と幸せな家庭を持たれました。平成3年に社長に就任されて以来、社内のコンピュータ化に注力されるなど合理化を推進、社内外から絶大な信用を得る豊富な知識と包容力の持ち主でありました。

「まず社員の意見を聞き、仕事には厳しい半面、お酒が入ると子供のようにはしゃぎ、いつでもどこでも作業服姿で、人一倍責任感が強く、働くものの見本でした」という社員の皆様の回想に、故人の偉大さを再認識させられます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

《第8次審査にことよせて》

北後 寿



わが国建設業界に鉄骨加工工場認定制度が導入されて既に15年を経過した。当初工場審査における各社の対応は、ともすれば途惑い勝ちであったことを思い浮かべると全く隔世の感がある。認定次数を追って審査事項が多様化、複雑化の傾向を示すと共に、受審諸社の研鑽振りにも年毎に格段の努力の跡が見られるようになった。

調査に出向く委員として、このような変容進歩に対し、その対応状況に心強さを痛感したものである。業界全体を押し包んだこの雰囲気こそ、本制度をここまで発展定着させるようになった原動力であると確信している。

第8次審査業務も各工場並びに事務局のご協力によって終えることが出来、全審査委員ともども大変嬉しく、ホッと肩の荷をおろした感慨に浸っている。この場をお借りして心から厚く御礼申し上げたい。

さて、この機会に最近の建築鉄骨を取り巻く環境について若干述べさせていただくこととする。

周知の通り、建物骨組みに鉄骨を採用している国は、日本が断然量的にリードしており、鋼材使用トン数は世界の諸外国をトータルしたものと匹敵する程である。

このことは、建築鉄骨を業として居られる皆様方の建築界における地位が世界的に注目されているようになってきていることを意味する。この点、誇り高い立場にある

ことを喜びながらも、周辺から厳しい目で見られていることへの強い認識を享受せられているものと思うのである。

このような背景のもとに、昨今の「鉄骨造建築物品質適正化問題」が発生したのであり、このことは建設業全般の中における鉄骨加工業界の当面する最重要課題といっても過言ではない。そして重点がハード面からソフト面に移りつつある本業界の浮沈に関わるキーポイントを握る忽せにできない事項と考えられるのである。したがって、現在進捗しつつあるこの問題ができる限り早い時期に円満に解決されるよう切に望みたい。

わが国経済のバブル的繁栄が弾け、各社共不況に苦しんで居られる状態にあることは、当面する重大な事柄であろう。1995年という新しい年を迎えて、回復への兆しが見え始めたと経済界でも希望が寄せられるようになって来た。

これとは別に、ここへ来て建築鉄骨における技術上の諸問題も現出し始めてきている。これこそ品質適正化に直結する本質的テーマを内包していると思えるのである。丁度1年前のロサンゼルス・ノースリッジ地震の被災調査によって明らかになった事象がこれに関係してくる。地震直後はよく分からなかった鉄骨構造、建物につき、表面の仕上げをはがしたところ、構造部材の一部に損傷のあることが判明したのである。余り広くもない被災地域であるのに120棟にも及ぶ建築鉄骨の接合部近くに亀裂が発見された。

この事実に米国の鉄骨関係研究者、技術者は大きなショックを受

け、ひたすらその原因究明に全力を挙げる事態が続いているという。

そして去る1月17日、あの思いもかけなかった阪神大震災が起り、日本人を恐怖のどん底に陥れた。全く記憶に新しく、今もその被災状況の全貌調査に明け暮れている昨今なのである。建物損傷の真相が明かされてくるにつれ、極めて衝動的な事実が浮かび上がってきた。日く、“大型のパイプ及び角形鋼管の柱数10本に真横に切断亀裂が発生している”、日く、“鉄骨柱の中間部に坐屈現象が見られる”、日く、“一般の鉄骨造建物にも大破したものがある”。また被害の詳細については各団体、大学企業などで調査とりまとめ中である。

もちろん、なかには殆ど被害らしいものを受けなかった建物も多い。今や、わが国の建築あるいは土木の構造関係研究者、技術者の間に限りない不安感に似たものが拡がりつつある。1年前の米国と同じ状態である。

これは冷厳な事実として謙虚に受け止めなければならない。恐らく設計、施工両面からの見直しが迫られるであろう。もはや何の言い訳も適用しなくなっている。

神戸の街は美しい安全なものとして再建されねばならない。そのためには耐火安全性を基本とした街造りが求められよう。建設業に新しい時代への転換が叫ばれ始めている。その一貫いや要にある立場として、今こそ建築鉄骨の真価が問われようとしている。

第8次認定はこのような歴史的、画期的変事への契機となる意義深い時期に行なわれたものと考えられよう。 (審査委員長)

賛助会員紹介

(株)茗和検査

当社は昭和54年1月10日、非破壊検査全般の会社として発足致しました。特に建築鉄骨の超音波探傷検査部門を得意とし“お客様との信頼を大切に”をモットーにして頑張っております。

昭和61年に業務拡張のため栃木

東日本工業検査(株)

東京鉄構工業協同組合の賛助会員に加盟させていただき、この間、東構協の皆さまと共に、建築鉄骨の超音波検査を通じて、微力ながら社会に貢献して参ったつもりです。同時に会員の方々からも多くの叱咤激励をいただき、昨年おかげさまでC I W認定を受けることができました。

話は変わりますが、1月の阪神大震災では多くの方々被災され、大惨事になりました。そして、新聞、テレビでも建築物の耐震性

関東システム工業(株)

昨年は、東構協組合員の皆様方より、ひとかたならぬ御配慮を賜り、心より感謝の意を申し上げます。今年も昨年と同様、鉄構業界は厳寒の時代が続くものと予測されます。こうした中、少しでも暖かい春の到来を待ち、日夜努力されている組合員の皆様の気迫に、最大限の敬意と拍手を払わせていただきたい気持です。

私共も現在では省エネ・パックスの据付け工事にとどまらず、総合電気設備の企画設計・設置工事、空調設備の設計・据付け、コージェネレーターシステム（常用発電機）にまで事業を拡大して参りま

営業所を設立、関東方面を主体とする会社になり、併せて昭和63年には社団法人日本溶接協会C I W認定事業者となり、受入検査会社として大きく飛躍致して参りました。(株)茗和検査は信頼と誠実を社是とし、社員に対する教育、技術指導を行い、社員一丸となって、お客様のニーズに応えるべく努力を致しています。

今後は若い人材の教育育成に力を入れ、他部門のC I W認定が目が注目されております。今後、必ず建築鉄骨の更なる重要性も叫ばれてくると思われま

一般に、検査会社とは鉄骨製作側からすれば、「うるさいこと言う奴」とけむたがれることがあるのも事実です。製作する側と検査する側が犬猿の仲では、決して良い製品ができないのは自明のことだと思

当社では、今回の阪神大震災を教訓とするならば、「製作する側と検査する側が一致協力し、よりよい製品を造り、社会に貢献する。」という考えを改めて再確認してお

私共が扱った省エネ・パックス、及び高圧電気設備工事は、昨年で6,500件を超えました。始めは手さぐりの連続でしたが、現在では、いかなる電気設備工事でも絶対の自信をもって臨んで居ります。

“安全第一”“余裕第一”“実行第一”の基に構築した実績と技術ノウハウを基本的核と致しまして、従来の組合員の皆様の各工場における電気設備の省力化・合理化に対しては勿論の事、皆様の営業活動の中で、総合電気工事の分野におきましても、ぜひともお手伝いをさせていただきたく、お願い申

標として、また構造物診断部門の方面にもエリアを拡げて業務拡張を行い、設立以来14年の実績を生かし、社会のお役にたつ事を目標として努力して行きたいと考えている次第です。

最後に、この誌面をお借り致しまして、常日頃よりお世話になっております東構協組合員の皆様に対し、なお一層のお力添えと御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

ります。当社もまだC I W認定を受けて日が浅く、やっと一人前になりかけたところです。まだまだ建設業界の景気回復の兆しが見えない今、会員の方々も大変なご苦労があると思います。しかし反対に、こうした時期だからこそ、今までやれてこなかったことに挑戦していかなければならないのかもしれない

今後とも皆さまのご指導ご鞭撻を受け、自己研鑽を怠らず、検査に対する総合的な技術をさらに向上させていきたいと思

組合あっての一賛助会員である事を肝に銘じて、比の厳しい時代を皆様と共に頑張る所存であります。何とぞ宜しく御指導、御鞭撻の程、お願い申し上げます。

営業品目

- ① 総合電気設備設計・施行
- ② 省エネ・システム 取付
- ③ 空調設備設計・施行
- ④ コージェネ・システム

賛助会員紹介

「中国東北視察旅行」に参加して

小橋 一男



昨年の5月から今年の4月迄の1年間、異業種の経営者を主体にした勉強会に参加している。その勉強会の講師の先生の誘いで昨秋「中国東北視察旅行」に参加した。先生を団長に異業種のオーナー経営者ばかり全員8名の気軽なツアーだ。旅行の目的は現在の経済構造、大変革期に対応して事業家、経営者が従来の視察旅行のようにただ見るだけでなく、人に会い、聞き、話し、手で触れ、討論し、確かめ、計画を練るのがキャッチフレーズ。私も現在、我社、我が業界の厳しい経営環境に何か参考になり、教えられる事があると思ひ、この趣旨に賛同した。

10月17日の夕方の便で成田空港から第1の目的地大連に向かってフライトした。翌朝、全員で約1時間半、事前の打ち合せをし、マイクロバスでホテルを出発。ホテルは大連駅のすぐ近くだが、一歩外に出ると露店が多い。大連市の人民広場はさすがに広く、立派なものだった。広場の近くにある大連市人民政府を訪問、大連市副市長、旅游局長、対外経済貿易委員会副主任と会見、視察の目的を説明しながら会談した。

午後、大連経済開発区委員会を表敬訪問、開発区の中のキャノン大連工場を訪問した。同工場では1989年に大連に独資で進出、現在、従業員は全員で2,300人、そのうち日本人は23人しかいないとのこ

と。5年間経過して、その間、幹部の方は色々と苦勞されたらしいが、現在では業積も軌道に乗って好調とのことだ。次に開発区に隣接した大連工業団地を訪問。この団地は日本と中国との合弁企業のために大連市が開発したもので、特に日本の中小企業の進出に積極的だ。既に数社の日本企業が合弁を組んでいる。

夕食後、午前中会見した経済貿易委員会の委員の方が4人、ホテルを訪ねて来た。我々団員と個別に会談し、日本企業の大連への進出と投資を希望していると強調され、中国の人達の熱心さには感心させられた。

翌19日は午後の便で第2の目的地、長春に行くので、出発前に大連市内を見学した。大連の気候は、日本の東北地方くらいで、東京より少し温度が低い程度だ。市内の繁華街は大勢の人々で賑わっていた。デパートに行ったが品物の値段は日本の $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ 程度で、中国人の所得水準からみると高いように思われた。大連市郊外の星海公園、老虎灘公園を見学した。景色がよく、のびのびとした気分を満喫した。夕方、長春に着いたが大連に比べると寒く、一変に冬になったような感じがした。

翌日、長春市人民政府、吉林省経済貿易委員会を表敬訪問。午後



大連市の繁華街

から長春ハイテク産業開発区を視察、工場見学をしたが、大連とは違い活気に乏しく期待はずれだった。寒さを我慢しながら見学を終わり、ホテルに戻り夕食後、ディスカッションを行い、見聞した事を全員がそれぞれの立場で意見交換、討論した。

翌日、長春第一自動車工場を見学、国営企業で従業員が30万人というマンモス企業だ。主としてトラックを流れ作業で製造していた。時間がないので旧満州国国府、旧関東軍司令部等をバスの中から見学したが、私も戦中派の人間なので過去を思い出して、何だかわびしい気持ちになった。

午後の便で最後の目的地北京に向かった。私は3年前に北京を観光したことがある。その時は空港から市内まで約1時間かかったが、今回は高速道路が開通したので、半分位の時間で市内に着いた。さすがは中国の首都だ。高層ビルが立ち並び、大連でもそうだったが、市内は建築ラッシュだ。しかし、地震が殆どないせいか、鉄骨建築は見かけない。鉄筋コンクリート構造が殆どで、20階以上の建物が多いが、柱も梁も細く、日本ではとても考えられない。

夜の天安門広場を見学、夕食後ホテルにチェックイン、全員で市内の探訪に出かけたが、少し歩くとバラックの建物が多く、露店が立ち並んで、まるで日本の戦後を思い出す。この国では、市内の中心部は近代化しているが、中心部を少しはずれると、日本に比べ数十年は遅れている。

翌朝、北京市人民政府を表敬訪

間、対外経済貿易委員会副主任その他の方々と会談、午後から郊外にある中国首鋼国際貿易工程会社の工場を見学した。この工場は中国で3番目の製鉄会社だが、鉄製品のほかに色々の製品を製造し、従業員も30万人以上の国営企業だ。土曜日の午後だったので工場の中は見学出来なかったが、私には大いに参考になった。夕食後、ホテルで今回の視察旅行で皆が感じた事、今後の対応等について全員でまとめのディスカッションを行い、全行程を終了した。

翌23日帰国のめ北京空港に向かったが、フライトが1時間遅れるとのこと。場内アナウンスもなく、空港は非常に混雑していた。離陸は更に40分位遅れ、成田に着陸したのは予定時間を大幅に過ぎていた。空港の対応も悪く、乗務員のサ

ービスも今一つだ。これを見ても中国が国際社会の仲間入りをするには一段の努力が必要と思われる。

最後に、今回の視察旅行を終えて私が感じたことを述べてみたい。広大な面積と世界人口の1/5を有する中国、社会主義経済から市場経済に移行しつつあり、この流れはもう止められないと思う。しかし、もし指導者が交替したら大混乱が起こるとも言われている。だが、一方では21世紀は中国の時代と言われ、世界各国の企業が進出し投資を続けている。現在、日本ではバブル崩壊後、産業構造の変革で広範囲に価格破壊現象が起こり、このまま高賃金、高コストが続けば、厳しい見方をすると、一部の成長技術産業を除き、我が国の製造業は経営が成り立たなくなる恐れがある。



中国首鋼工場の正門前

我々鉄構業界も例外ではなく、時期が来れば景気が回復して、また良い時代が到来するだろうなどと他力本願の甘い考えは通用しなくなるとは思えてならない。現在、中国はめざましい活力で経済発展を続けている。色々問題点もあり、何も中国に限った事ではないが、これからの鉄構業界は個々の事情を超越して、国際的視野に立ち組合単位で思考する時代になると思う。特に、これから次代を担う若い経営者諸君に期待して止まない。(株)小橋鉄工所社長

平成7年度 講習会 年間スケジュール 予定(案)

名 称	開催予定	人 数	場 所	備 考
第8次2回目 認定申請工場向け説明 自社規準の作り方	3月15日	50名	鉄鋼会館	801
NDI 技量認定、受験講習会 前期 (学科) 〃 (実技)	3月16日	20~30名	組合会議室	試験3/23 6/6~11
	5月30日	10~15名		
WES 資格受験講習会 1期	5月	15~20名	組合会議室	筆記試験6/4
SN材等に関する講習会	6月	50名	未定	
鉄骨検査技術者資格学科試験 受験者向け講習会(精度) 同上 (超音波)	7月初旬	関東支部合同	溶接技術 センター	試験7月中旬
	7月初旬			
8次2回目 新規、変更申請 工場向け特別講習会	7月	20名	組合会議室	
鉄骨損益早見表講習会	8月	50名	未定	
NDI 技量認定、受験講習会 後期 (学科) 〃 (実技)	9月初旬	20~30名	鉄鋼会館	試験9月 11月
	11月初旬	10~15名		
現場施工管理技術者講習会	9月	50名	鉄鋼会館	
鉄骨製作管理技術者資格 受験者向け JASS6 講習会	10月 2日間	50~80名	鉄鋼会館	試験10月中旬
WES 資格受験講習会 2期	10月	15~20名	〃	筆記試験11/12
鉄骨検査技術者資格実技試験 受験者向け講習会(精度) 同上 (超音波)	10月下旬	関東支部合同 〃	溶接技術 センター	試験11月中旬 試験11月末
	11月下旬			
検査の受け方進め方 (工場製作)	11月	30名	那須ストラク チャー	

新規組合員紹介 // 東構協メンバー135社に //

登録 No	会社名	代表者名	〒	所 在 地	電 話 F A X	資本金 (万)	年能力 トン	認定関係 グレード	所 属 グループ
135	吉川鉄工建設	吉 川 英 一	198	東京都青梅市根ヶ布1-499-1	0428-24-5559 0428-22-2552	—	600	未	西

(平成7年2月1日現在)

事務局からの
お知らせ

(平成7年 青年経営者委員会 活動計画)

年間主要行事予定

〔I〕主要行事

- ◇検査・指導パトロール 8月～
- ◇第8次2回目認定申請
受付開始 6月1日
- ◇同上 工場実態調査 8月～
- ◇鉄骨検査技術者学科試験 7月
- ◇鉄骨製作管理技術者試験 10月

- 3月 NDI超音波 技量認定試験受験者向 学科講習会
- 3月 不具合処理システム検討会 勉強会
- 4月 財務諸表 講習会
- 5月 NDI超音波 技量認定試験受験者向 実技講習会
- 5月 総会(認定講習会同時開催)
- 6月 第2回 フォーラム
- 8月 鉄鋼展及び他県交流会
- 9月 NDI超音波 技量認定試験受験者向 学科講習会
- 10月 工場見学 研修会
- 11月 NDI超音波 技量認定試験受験者向 実技講習会
- 12月 第3回 フォーラム 及び 忘年会

第9回 通常総会(予告)

日 時 平成7年5月23日(火) 場 所 鉄鋼会館 606号室 懇親会 18:00~20:00 701
 16:00 総 会 16:00~18:00 601 ご出席を予定願います。

(IV) ご参考までに関係団体の講習会予定をご紹介します。

1) 関係団体検定・講習予定(平成7年3月~12月)

(社)日本溶接協会 東京都第一支部(T E L 3685-5448) 関係
実施場所 産業・協同センター(江東区大島3-1-11)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アーク溶接作業従事者 学科 特別教育(3日間教育) 実技	9、10 16	4、5 11	— —	6、7 13	4、5 11	— —	5、6 12	4、5 11	7、8 14	— —
J I S 溶接技術 学科 検定試験日 実技	4、5 25	1、2 29	13、14 —	3、4 10	1、2 22	5、6 —	2、3 9	7、8 28、29	11、12 —	2、3 —
ガス溶接技能講習 学科 (2日間講習) 実技	22 29	19 26	24 31	21 28	19 26	23 30	20 27	18 25	22 29	6 13

2) (財)ボイラー・クレーン安全協会東京事務所(3685-5445) 関係

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
玉掛技能講習 学科 (3日間講習) 実技	9、10 12	13、14 16	18、19 21	8、9 11	13、14 16	10、11 13	7、8 10	12、13 15	16、17 19	7、8 10
クレーン運転業務特別教育 学科 (2日間教育)(玉掛技能講習修了者)	—	24、25	—	20、21	—	22、23	—	19、20	—	12、13

3) (社)日本溶接協会(3257-1521) 関係

W E S 8103 1、2級資格認定

認定試験日 (1、2級共)	筆記試験		口述試験 (講習会の受講修了者は免除)	
	1 期	6月4日	7月9日	
2 期	11月12日	12月10日		
講習会(1級対象)	1 期間	4月5日~4月8日 4月17日~4月20日		41,200. —
	2 期間	9月20日~9月23日		
(2級対象)	1 期間	3月29日~3月31日 4月6日~4月8日		36,050. —
	2 期間	9月6日~9月4日 9月21日~9月23日		

4) (社)日本非破壊検査協会

(5821-5104) 関係

1種技量認定試験

超音波探傷検査U D

(受付2月17日迄)

一次試験 3月23日

二次試験 6月6日~11日

秋は9月頃に実施

編集後記

阪神大震災で被災されました方々には心からお見舞申し上げますとともに、再び立ち上がり、美しい姿に復興されることを心待ちにしたいと思います。

我々ファブもその為の一助になる訳ですが、この震災の教訓を旨として、改めて品質保証の大切さに思いを致し、これを実施することが社会的信用につながり、結局は我々自身にとってより実の多いものになるものと思います。

頑張りましょう! (M.Y)